

呑川 ニュース 2022年2月28日

まん延防止法は3月中旬まで延長されそうですが、皆様お元気でしょうか？

◎ この時期、呑川には冬鳥として白サギ類やカモ類（コガモ、マガモ、オナガガモ、ヒドリガモ、オオバン、オカヨシガモ）留鳥としてカルガモ、カワウが多く見られました。

今冬（2月）の呑川情報は全身が白いサギの紹介です。呑川にやってくるサギ類はダイサギ（全長90cm）、チュウサギ（全長68cm）、コサギ（全長61cm）、アオサギ（全長93cm）、ゴイサギ（全長57cm）の五種類です。ダイサギが例年5～6羽見られたのが今年は20～30羽の群れがやって来ました。白サギの群れにはダイサギ、チュウサギ、コサギ、アオサギが混在しているようでした。チュウサギは夏鳥（4～11月）と云われています。ダイサギとチュウサギの違いは近くでないと思わなければいけません。口角の違いが説明されています。

今年の呑川は水質が改善されたためか、ボラの大群が良く見られ、野鳥にとって豊富な餌が集まる要因でしょうか。ボラを銜えたカワウは良く見かけましたがサギの採餌はあまり見られませんでした。サギは魚やエビ甲殻類を食すとあります。

日中、上流域の谷中橋から中流の太平橋の間を移動したりして、また早朝には池上橋の下に群れが見られました。本門寺の山側をコロニーにしている、川沿いの建物屋根や電線にも休んでいます。道路や樹木の葉が糞で白くなっているところも見られ、苦情が出ているようです。

（注、シラサギ、シロサギの名前のサギはいません。）



二国・池上橋 下部



本門寺・樹木上



樹木↑ダイサギ(アオサギ)



民家屋根↑サギ(カワウ)

* 写真提供 ダイサギ1, 2, 3, 田代氏

* 参考資料 日本の鳥 300 叶内拓哉 文一総合出版

「呑川の会」



ダイサギ・1



ダイサギ・2



ダイサギ・3



コサギ



アオサギ



ゴイサギ

日蓮橋の右岸の植え込み壁には白鷺のレリーフが見られます。昔このあたりは水田が多くシラサギやツルなどが沢山渡ってきたと説明があり、さぎ苗の説明もあります。



日蓮橋付近緑道



シラサギレリーフ



さぎ苗説明レリーフ

◎2月に見られた花木と野草。



北野神社 白梅 (2月25日)



紅梅



本門寺・河津桜 (2月28日)



菜花

養源寺



オッタチカタバミ

花期は4~11月、2月

に咲いている 2022, 3, 3H, Y

呑川ニュース No3 「アオゲラが現れる」

令和4年3月25日



呑川沿いの妙見堂樹木にアオゲラが現れました。冬支度の林は今が野鳥の観察し易い時期ではと思います。「キツツキ目、キツツキ科、日本固有種」本州に分布。別名「森の番人」とも呼ばれます。体の背や翼の上面は暗緑色、腹は横縞模様、顔は赤い斑があり、頭が大きい。背中や肩羽は灰色、喉は白い。尖ったくちばしで木部を彫り、昆虫(アリ、蜘蛛等)を食べま

す。巣穴は、ゴルフボールより小さい直径の巣穴を自ら掘ります。

ドラミング(木の幹をつつくこと)は①虫を捕らえる、②巣穴を掘る、③なわばり、繁殖期つがいの募集などのためと言われます。穴をあけたり、皮をはいたりするのは虫に侵された樹木で、健全な樹木を突つきまわることには無い。林業にとっては益鳥です。



オスは額から後頭部にかけて羽衣が赤い、メスは羽衣のみ赤い。(写真は♀)

「ピーー、ピーー、ピーー、ピーー、」と大きな声がさえずりです。(参考)キツツキの仲間にはコゲラ、ヤマゲラ、アカゲラ、クマゲラ、ノグチゲラ、ほかあります。

呑川の会:H,Y

呑川ニュース 第2号

*「カワセミ」が現れました！

◎ 令和4年3月12日早朝、「堤方橋～一本橋」間で2年ぶりに撮れました・



一度会うと忘れられない、野鳥の姿です。

* 外見の特徴ほか

全長 17cm、野鳥の分類： ブポウソウ目、カワセミ科、カワセミ属。

鮮やかな水色の体色、体に対して大きめの頭、鋭い嘴、黒く輝く瞳……。

また、ブルーの背中とオレンジの腹が鮮やか、喉と肩に白が入っています。

翼と頭部は光沢があり、光線の具合でブルーやグリーンに見えます。

お知らせ！

“呑川の紹介ガイド本が近日公開！”

「わたしたちの都市河川 呑川」が発刊されました。

A4判、カラー、240ページ

区内図書館・学校に配布決定

「呑川の会」